

天草工業高等学校 令和元年度（2019年度）学校評価表

1 学校教育目標
本校の「温厚・誠実・勤勉」の校訓に則り、心豊かで礼節を身に付け、志高く自主自律の精神で活力に溢れ、将来社会に貢献できる有為な人材となることを目標に生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
<p>(1) 社会に適用する人間力を持った人材の育成</p> <p>ア 「当たり前」のことが「当たり前」にできる、「時代の先読みができる」人材を育成する。</p> <p>イ 凡事徹底により基本的生活習慣の確立を図り、社会人基礎力を育成する。</p> <p>ウ いじめを許さず、自他の命を大切にすると人権教育を推進し、あらゆる場を道徳教育の機会と捉え、規範意識や社会性の高揚に努める。</p> <p>エ 感謝の気持ちと思いやりの心を育て、明るく協働できるコミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>オ キャリア教育を推進し、望ましい勤労観や職業観を育成する。地域や企業との連携を図り、体験活動、ボランティア等とおし、社会の一員としての自覚と責任感を養う。</p> <p>(2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現</p> <p>ア 授業の質を高め基礎的・基本的な学力の確かな定着と、目標達成に向けた学力の向上を図る。</p> <p>イ 学科の特色を生かした専門教育を展開し、各種コンテストへの挑戦、技能検定、国家資格等、資格取得を奨励し、スペシャリストとなる基礎の確立に努める。</p> <p>ウ 明確な進路目標を早期に立て、進路決定能力を育成すると共に、主体的に自己実現を目指す態度を育てる。</p> <p>(3) 部活動の積極的推進、心身の健全育成</p> <p>ア 体力・競技力の向上を目指し、体育・スポーツを積極的に推進する。</p> <p>イ 部活動・生徒会活動をより活発に展開し、豊かな人間性や社会性を持った生徒を育てる。</p> <p>ウ 健康、安全、仲間を大切にすると共に、自己管理ができる力を養う。</p> <p>エ 文武両道を推進し、バランスのとれた知・徳・体を育成する。</p> <p>(4) その他</p> <p>ア 広報活動を積極的に行い、開かれた学校づくりの推進に努める。</p> <p>イ 環境教育、情報モラル教育の推進に努める。</p> <p>ウ 防災教育の充実と地域と連携した学校づくりに努める。（防災コミュニティ・スクール）</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標の周知と理解	教育目標が生徒、保護者に周知、理解されている。	保護者の評価90%を維持する。	保護者への案内は、プリント配布とメール配信を併用し確実に情報伝達を行う。	B	教育方針や目標の周知については保護者の88%が伝えたと回答。学校行事や教育活動等の周知は、プリントとメールを併用して情報の配信徹底ができた。
	志願生徒の確保	入学志願者数増加に繋がる魅力ある学校づくりを推進する。	将来構想部を中心に、本校の魅力を積極的に発信し、入学者数定員200名充足を目指す。	本校教育活動を地域に伝える国道側掲示板の内容を充実させる。また中学生版天工便り発行だけでなく、県魅力創造発信事業等を活用した取り組みで地元にも目を向けさせる。	B	中学生版天工便りは今年度6号発行、教育内容や学科紹介と出身中学校に向けた在校生の活動等を掲載した。今年度も県魅力創造発信事業を利用し、天草地区県立高校合同で本校がデザインしたメッセージと各校の校章入りボールペンを製作し、管内の中学3年生に配付した。さらに天工祭等でも各学科の魅力も発信した。ただ天草全体の中学校3年生は昨年度より約44人減少（4%減）、今後も同傾向にある。
	学校改革の推進	校務削減及び授業改革を積極的に推進する。	働き方改革を推進して、生徒や職員の健康確保につなげる。校務削減に向けて内容を見直し精選する。校務改革推	毎週水曜日朝の職員研修テーマをタイムリーで効果的な内容にする。またリフレッシュデーや部活動休養日を周知徹底し、生徒は早めの下校、職	A	リフレッシュデーの徹底とともに部活動の計画的な休養日の設定により、昨年度に比べ職員の超過勤務の平均時間は減少傾向が見られ、法で定める月45時間を下回るようになってきている。また、校務負担軽減を目的にマークシートによるアンケート調査を各分掌部の様々な調

			進にむけ全職員 の意思疎通を図り、健全な校務運営と分かりやすく能動的な授業が展開できる環境をつくる。	員は定時退勤に取組む。校内配付物等紙の削減にむけ、朝会連絡やPCでの情報伝達を推奨し、職員の校務負担軽減のため、アンケート調査をマークシート式に切替える。		査で導入した。当初は回答記入への戸惑いも感じられたが、集計処理速度が上がり、調査結果も速やかに完成できるようになった。さらに調査用紙の保管もデータでの保存で不要となり、大量の調査結果の提示も校内ネットワークでのデータを閲覧することにより紙媒体での配布物の削減にも繋がった。
学力向上	分かる授業と学力の定着	分かる授業づくりを目指した工夫や改善がなされ、生徒に思考、判断、表現力を身に付けさせている。	教員が資質向上を図り、分かりやすい授業づくりを行い、「授業の教え方がうまい」と感じる生徒を90%以上にする。(昨年度82%) 基礎学力の向上と学習意欲を高め、生徒の欠点総数を年間200個以内(昨年度265個)にする。	授業研究週間を年2回実施し、感想シートを活用して職員相互の研鑽に努める。ICT活用授業導入や異教科間の授業見学を行い、積極的に授業評価や意見交換を行う。授業では発表発言の機会を生徒に与える。考査前に宅習時間調査を実施し、宅習時間と考査に対する明確な目標を掲げさせ、目標達成することで、授業への意欲を高める。	C	「授業の教え方がうまい」と感じる生徒が81%と昨年度より1ポイント下降した。今年度も2回の授業研究週間を実施し、感想シートの提出状況(2回平均約5割)は、前年度から2割上昇した。次年度も授業見学等とおして、授業改善を図っていきたい。 ICT機器の活用やA・L型授業の導入が増え、職員の授業内容の改善や取り組む方法に工夫が見られた。しかし、年間の欠点総数は、475個であった。近年、生徒数の減少に伴い、基礎学力の乏しい生徒数が増加現象にある。本校では基礎力診断テスト等のツールを活用した生徒の学力を客観的に把握している。そのデータを活用し、学び直しの機会を確保する等の手立てを今後検討していく。
	授業時間及び家庭学習時間の確保	年間計画を立て、学期毎に見直しを立てながら授業時間を確保する。 家庭学習の習慣を付けさせる。	事前に授業の入替を行い、計画に沿った年間授業時数を100%確保する。 生徒による評価アンケートの家庭学習に努力していると答える生徒を40%以上にする。(昨年度33%)	生徒にシラバスを示し、評価の観点等を理解させ授業への参加意識を高める。 各教科課題等を確実に提出させ家庭学習を定着させる。 宅習時間調査により生徒の実態を把握、的確なアドバイスで家庭学習の定着を図る。	B	学期毎に授業計画を修正しながら全教科・科目のバランスを考えた授業時間を確保できるように調整することを心掛けた。学校行事などの関係で100%とはいかなかったが、おおむね満足いく授業時数を確保できた。 宅習時間調査の結果から、ほとんどの生徒が考査前の家庭学習の時間を確保できている。生徒による授業評価アンケートでの家庭学習に関する回答は36%と昨年度より3ポイント上昇したものの目標の40%には届かなかった。
キャリア教育(進路指導)	就職指導の見直しと充実	就職希望者の職業観を早期に身に付けさせ、就職に対する早期の意識付けをさせる。	就職試験一次合格者を97%台にする。(昨年度96.5%) 県内就職に対する意識を高め、意欲が低く無関心な生徒を0にする。	3年生対象の就職試験対策を全職員で取組むとともに、就職のミスマッチを防ぐために早期から進路情報を発信し1年生から職業意識を高めさせる。地元や県内企業情報や求人状況を適宜発信し、生徒や保護者の意識を高める。 各種資格取得に挑戦し、スペシャリストとなる意識を確立させ、進路意欲を高める。	B	全校をあげて、就職試験対策・面接対策に十分に取り組んだ。その結果、就職試験の一次合格率は94.5%であった。これは、昨年の一次合格率(96.5%)及び目標(97.0%)には及ばなかったものの、概ね高い合格率を残すことができた。 県内就職の生徒数は43名で昨年度(35名)より増加した。これは、熊本しごとコーディネーターによる天草島内や県内の就職に関する的確な情報提供の賜物であると考えられる。 資格取得にも積極的にチャレンジし、数多くの資格を取得し、履歴書・調査書の記述に充実した内容を与えることができ、合格率の向上に寄与した。
	公務員指導の見直しと充実	随時公務員受験情報を提供し、受験対策を学校が組織として行なう。	公務員合格を100%達成させる。	進路担当者と工業科職員が連携し、的確な指導を行う。 外部機関からの情報収集に努め、生徒の希望に沿った受験情報と対策を提供する。	B	担当者と工業科との綿密な連携を図りながら指導ができた。その結果、公務員希望者12人中10人が合格、合格率83.3%であった。実績のある公務員専門学校担当者による詳細な情報収集と一次、二次に向けた受験対策を掌握し、生徒や保護者に必要な情報提供ができた。

	進学指導の見直しと充実	随時、最新の進学情報を提供し進学指導を充実させる。	志望校への合格率100%を実現させる。	進学希望生徒には早い段階から課外等で指導し、受験科目、論述、面接試験等の進学対策指導を全職員で行う。	A	進学希望者は、進学課外を受講し意欲的に学習に取り組んだ。これにより、国立・私立大学希望生徒の全員が希望する大学に合格し、6名の合格者が出た。全職員によるきめ細かい指導が実現できたため、希望する上級学校にほぼ100%合格できた。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	落ち着いた学校生活を送るため8時20分までの登校と時間の使い方に対する意識を高める。また、進路決定にむけ整容面の意識を高める。	遅刻生徒数を年間のべ120人以下にする。(昨年度131人より10%減) 服装頭髪検査一次不合格生徒を20%減少させる。	全校集会や登下校指導において、挨拶の励行と声かけにより生徒の意識を高めるとともに、担任からの指導で日頃から意識を改善させる。	B	毎朝多くの先生方の協力を得ながら登校指導をおこなってもらった結果、生活習慣の乱れによる遅刻はほぼなくなっているが、全体としては10%増となっている。心身共に元気に登校できるよう、生徒の表情や態度を登下校時や授業時に観察していけるようにする。 頭髪服装検査では一次不合格生徒が18%減。再検査は0%となり、整容面の意識向上はできていると感じた。
	規範意識の醸成	決まり事への遵守意識や規範意識を高めることで、一社会人となるための力を育成する。	理性ある行動や他人への思いやりの心を持った優しい生徒を育成する。また、特別指導件数0件とする。	5S活動と2A運動を推進し、生徒の心に届く指導を心がけ規範意識を高める。授業や部活動等で全職員が同じ意識で指導に取り組む。	C	今年度は特別指導0件を目標に全校集会、学年会等で話をしてきたが、昨年度より増加(+4件)してしまった。信頼される社会人となるために、話を聞く力、考える力を身につけさせることが来年度の大きな課題となった。
	交通安全教育の徹底	原付通学生及び免許取得生徒の交通事故、交通違反を減少させる。	交通違反件数を昨年度の25%減少させる。(昨年度8件) 交通事故件数を昨年度の20%減少させる。(昨年度11件)	実技講習、交通講話、校外指導、原付通学生例会、原付クラスマッチ等の多くの取組をとおり、生徒の交通安全意識、危険予測能力、交通マナー等を向上させる。	C	実技講習や校外補導、原付通学生集会を年間通して行ってきたが、大きな事故・違反等はなかったが、交通違反が10件(20%増)、交通事故が10件(10%増)となってしまった。生徒の命を守るためにも引き続き交通マナーを向上させる取組をしていく。
	生徒会活動の活性化	生徒会が行う行事を充実させる。生徒が自主的にボランティア活動に参加する意欲を高める。各種委員会活動を活性化させる。	生徒会が主体的に企画、立案、運営を行い、全生徒が学校行事に積極的に参加する。年間をとおりて生徒の80%以上が1つ以上ボランティア活動参加。(昨年度75%) 委員会活動を全校生徒に広め、活動取組を浸透させる。	生徒の意見、感想を各行事の前後に調査し、今後の工夫改善の資料とする。生徒に地域ボランティアの案内し参加を募る。活動状況を適宜HP等で公表する。交通委員会の2重ロック運動、美化委員会の美化コンクールを推進する。	A	生徒間の意向や意見を多く取り入れることができ、充実した学校行事を実践することができた。来年度以降もよりよい生徒会活動を継続させていきたい。 地域ボランティアでは1つ以上の参加した生徒が目標も80%には達することができなかったが、58.8%の生徒が参加しており、地域貢献に努めることができている。また、インターアクトクラブも打ち合せや活動、発表を精力的にすることができた。 防犯意識向上のため交通委員会では2重ロック推進をしているが、今年度も99.3%と高い実施率を達成することができた。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進と充実	学年の実態に応じて人権に関する知識や人権感覚を高めるため、年間計画に基づくLHRの実施。	部会で作成した年間計画に基づいて、各学年と連携して授業の創造と内容充実に努める。	各学期に1回、学年の実態に応じた人権教育LHRを実施する。	A	人権学習LHRの年間計画に基づき、体系的な人権学習に努め、学期1回の実施については概ね実施できた。特に本年度は、県「水俣病の教訓に学ぶ」事業を活用し、5名のゲストティーチャー(その他に県の担当者3名)を招いての特設授業を1年生対象に実施した。小中学校で学習してきた内容ではあるが、新たな切り口による内容とかつロールプレイングを取り入れた展開等によって、新鮮であった。

	職員研修の充実	人権に関する職員研修を行うことで職員の指導力と人権意識を高める。	人権教育推進委員会主催による職員研修会を各学期1回以上開催する。	現地学習(恵楓園訪問)を行い、職員自らの人権意識を検証し、高める。	A	生徒会いじめ対策委員とともに「菊池恵楓園」を訪問、また生徒会役員とともに県子ども集会に参加し研修を深めた。その他にも上天草市で開催された部落解放県集会にも複数の職員が参加できた。
	校種間及び家庭・地域・関係機関等との連携と協力	小中学校と連携を図り、家庭・地域に対する人権教育への理解と啓発を推進する。	中学校と情報交換を図る。HPや学校だよりを活用し学期1回以上掲載し啓発する。	育友会親子メッセージカード取組に協力。年度初に中学校訪問。HPへの記事掲載。	B	年度当初に新入生がいる中学校への訪問を実施し、引き継ぎ事項や特段の配慮が必要な事柄について聞き取り、生徒理解研修をつうじて共通認識を図った。一方、ホームページへの記事の掲載については、目標とした人権教育への理解・啓発を学期に1回以上掲載できず次年度への課題が残った。
	命を大切に する心を 育む指導	生徒一人一人に、命や人権の大切さについて十分に考えさせる。	あらゆる場面を通じて、命や人権の大切さについての話題を取り上げ、生徒が考える機会を増やす。	月1回朝読書時間に「命や人権に関する読み物」を全校生徒に実施。1月に当事者を招いた講演会を実施する。	A	「命や人権に関する読み物」では、月毎に異なる担当者が選定した多様な視点からの読み物に触れ、人権について考える契機にできた。11/5に村上美香さんを実施した。講演会前に、関連する文章を提示し、事前学習としても活用することができた。
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会の確立と活動の推進	「いじめ防止基本方針」に沿って、校内体制を明確化させる。 いじめ未然防止の取り組みを充実させる。	全職員が本校の「いじめ防止基本方針」を理解し、体制づくりに努める。 全職員がいじめ未然防止への意識を高め、各取組を進める。	人権教育主任と生徒指導主事を中心に校内研修やマニュアルを基に職員の理解を深め、校務分掌間の連携を図る。 全ての教育活動でいじめ防止に努め、いじめアンケート等から早期発見に努める。	B	年度当初の職員研修において、本校のいじめ防止基本方針の周知を図った。また、「いじめ防止対策会議」の報告をとおして、「いじめを生まない学校・学級づくり」について確認・学習を進めている。 1学期に学校独自のアンケート、2学期には熊本県「心のアンケート」を実施した。3学期にもアンケートを実施予定である。県導入の「いじめ匿名連絡サイト(スクールサイン)」の活用については、生徒・保護者への周知徹底をさらに図りたい。
	いじめ防止教育の推進	生徒の悩みやSOSに気づける体制づくりに、全職員で取り組んでいる。	把握・整理した情報を基にSCから助言を受け、迅速かつ組織的に生徒を支援する。 SCの活用、カウンセラー室の運用を充実させ、相談しやすい環境づくりを進める。	面談週間やアンケート(県、学校独自、QUテスト)を実施。 学期1回いじめ防止対策委員会を開催。月1回SCによるカウンセリング日を設定し、事前に生徒、職員にSCの訪問日を周知徹底する。	A	5月の心理テスト、6月の面談週間に加えて、学期に1回の「心のアンケート」も活用し、より丁寧な把握への取組ができた。 月1回のSC訪問時に、配慮が必要な生徒や不登校等の生徒とその保護者からの相談、生徒理解に関する担任相談等の対応をしていただいた。その結果、2学期以降数名の生徒が登校をしぶる状況にあったが、現在は少しずつだが状況も改善しており、登校ができるまでになってきている。
	重大事態への対処体制の確立	職員の意識を高め、重大事態を想定した対処体制を確立している。	作成した「重大事態への対応マニュアル」をもとに、対処体制中における職員個々の役割を確実に理解させ、緊急対応に万全を期す。また緊急支援チームについても、全職員への周知徹底を図る。	職員研修や担当者会等を開催、報告・連携系統を確認する。県の緊急支援チーム派遣制度については、文書及び要請書書式を職員に示し、重大事態発生時にも混乱しない職員間の連携づくりに努める。	A	年度当初、全職員に対する本校における「重大事態への対応マニュアル」の周知徹底を行うとともに、事態発生時の職員の的確な対処に向けた体制と役割の確認を行った。また、朝会時の資料配付や職員研修を活用して、重大事態を未然に防止するための情報発信と職員一人一人に緊張感の醸成を行った。
	地域連携(コミュニケーションなど)	防災型コミュニケーションの	生徒・職員の防災意欲と意識の高揚。地域と一体となった災害時の連携を強	学校・地域・関係機関による防災組織(学校運営協議会)の推進と実動性のある防	学校運営協議会を定期的に開催し、地域との連携を強化する。地域住民参加の避難訓練を実施する。	

	推進	化。 災害時の学習支援体制の構築と自主的かつ協働的活動ができる生徒育成のための防災教育を行う。	災対応能力の向上。 協議会と連携しながら、実践的防災教育と効果的学習支援態勢の強化を推進する。	全教科での防災教育が定着に向けて、教科ごとの防災教育の基本内容を確認させる。	A	2回実施した避難訓練は、2回ともブラインド型で実施。課題等もありより実践に即した訓練内容を今後も検討していく。地域住民の参加はなかった。 全教科における防災教育の実施に向けた基本内容の確認がやや遅れている。防災教育の確実な定着に向けて今後も継続した取り組みを行っていく。
	教育活動への理解	教育活動への理解を深め、関心を持ってもらう。 公開授業及び講演会を開催する。	保護者への学校連絡法を効率化し連絡が保護者に90%以上確実に届くようにする。 近隣校や保護者に事前案内で参加を募り、来校を促す。実施後は実績を公開する。	図書情報部と連携、HP掲載や紙面とメールの併用。生徒経由の配布物の伝達強化。 「くまもと教育の日」連携事業や本校教育活動を保護者や地域へHP等で発信する。	B	確実な情報伝達のためにHP・紙面・メール配信等複数の方法を併用して伝達の強化を実施した。 保護者の学校評価アンケートでは、昨年度より2～4ポイント低下したものの90%近い評価をいただいている。 公開事業や学校で開催する講演会の案内については、その都度プリントやメールで情報発信しているものの、保護者等の参加は余り多くない。特に公開授業への参加者増に向けた対策が必要である。
	開かれた学校づくり	小・中学生を対象としたものづくり教室を開催する。 地域との連携を強化し、生徒の社会性向上を図る。	「ものづくりはひとつづくり」を旨に、近隣小・中学生に対して、ものづくりの楽しさを伝える。 地域行事への積極的な参加を促し、地域の方々との交流を推進する。	工業各科で企画して小・中学生に魅力ある工業教育を体験する機会を設ける。 学校行事、勤労体験やボランティア活動等とおして、地域の方々と協働する機会を活用する。	A	専門高校生によるものづくり講習会を8月に実施した小学生対象の講習会には148人、10月に開催した中学生対象の講習会には9人の参加者数であった。 ものづくりの楽しさや工業の魅力を発信する貴重な機会手なっている。今年度も多くのボランティア募集依頼があり、特に地域行事への積極的な参加を生徒に呼び掛けた。その結果、全校生徒の58.8%が参加している。インターアクトの活動も年々充実したものになっている。
保健及び安全管理	心身の健康管理の充実	生徒、職員の健康状況の把握と適切な指導を徹底する。 委員会活動や研修会をおし、健康に対する意識を高める。 部活動の休養日推進活動に取り組む。	健康診断や検診等を円滑に進め、健康管理と指導を徹底させる。 健康相談や研修会を開催して、生徒職員の健康管理意識を高め、毎週水曜日のリフレッシュデーを活用する。 全部活動において週に1日は休日設定する。	タイムレコーダーによる勤務管理や学校医、その他関係機関と連携し状況を把握。 学校保健委員会や健康講話の実施、生徒職員と保護者の健康へ関心や意識を高める。 定期的に顧問会や朝会で先生方に休養を促す。部活動練習計画を毎月提出する。	A	年間計画通りに健康診断を円滑に実施することができた。 ストレスチェックや時間外勤務の報告及び産業医のアドバイス等を職員全体で共有することができ職場の働き方の改善に繋がった。 毎週水曜日のリフレッシュデーの活用及び閉庁日を設けることにより、職員の全体平均で約5時間の時間外労働が短縮された。 各顧問に毎月の練習計画の提出や休みの設定など促すことができた。
	学校環境の保全	安全、安心な学校づくりを推進する。 授業中の事故発生時における危機管理能力を高める。	学校における施設、設備の事故防止対策を行い、事故の発生を0件とする。 部活動における生徒の事故を防ぐとともに健康管理を100%適切に行う。 授業中の事故発生を100%防ぐ。また、5S活動を推進し、環境整備に努める。	5S運動を推進と安全点検の徹底を図る。施設設備の週1回点検と不備や改善箇所の早期発見と改修に努める。 各部顧問は、生徒の健康状態を把握し、事故防止とともに、光化学スモッグ等の突発的な現象にも迅速に対応。 5S活動を推進し、危険予測能力を高め、環境整備と安全指導を徹底する。	A	安全点検においてデータ入力から紙媒体による提出方法に切り替えたことで、100%回収することができ、施設・設備の点検や修復がスムーズに行うことができた。 光化学スモッグ発令時には、各顧問との情報共有を図り、練習を中止させる等の措置をとることができた。 授業中の事故や怪我に関しては、保健室と連携を図り瞬時に対応することができた。また、朝の健康観察を始め保健体育の授業において体調管理の徹底など指導することができた。 安全指導徹底により生命に関わるような重大事故等の怪我は発生を未然に防ぐことができた。

工業教育の推進	魅力ある工業教育の推進	ものづくり教育をとおして工業教育の魅力を理解させる。地域と連携した工業教育を展開する。	生徒の創造力を育成し、やる気を引き出す。計画から実施、検討、処置のPDCAサイクルをとおして協働し、自己実現力を身に付けさせる。活版印刷機の復刻やオリブオイル搾油機の製作を継続させるとともに、課題研究をとおして幼小中学校への技術提供を行う。	実習や課題研究をとおして企画、計画、実践力等を身に付けさせながら、A・Lの定着と評価法を確立する。ジュニアマイスター取得を目指して、達成感や成功体験により、意欲を高める。地域の要望に応え、天工生独自のものづくりをとおした技術提供で魅力を発信する。	B	設備・器材面での充実が進まないが、A・Lの知識・技術面は向上していると感じる。評価や進行、手法に関して研究の余地が残されている。今後も職員全体で研鑽を積み、生徒のコミュニケーション能力や社会性を高めたい。新学習指導要領改訂に向け、評価法の構築や職員間の意思疎通を図っていかねなければならない。また指定を受けた教育課程の研究成果を、全科で協力し来年度の運用に向け準備をしていく。資格取得は、技能検定や電気工事など難関資格への挑戦が見られる。ジュニアマイスターを目指す生徒も多いため、目標達成へ努力を継続する。機械科が課題研究で技術提供を行っており、地域から好評価を受けている。県内高校の生徒研究発表でも高評価を得た。
---------	-------------	---	--	---	---	---

<h4>4 学校関係者評価</h4>
<p>○学校評価表の学力向上「わかる授業と学力の定着」、生徒指導「規範意識の醸成」は自己評価でCとなっているが、学校の外から見ると先生方は生徒達への指導にとっても頑張られていると思うのもっと高い評価でも良い。</p> <p>○在校生の活躍や取り組みを見るととても喜ばしい。卒業生で様々な業界で活躍しているOBの姿をもっと紹介して欲しい。</p> <p>○防災教育カリキュラムを全教科で実施する目標にあるが、教科の特性によっては難しいかもしれない。現在、社会科と家庭科との教科横断型授業を行っておられるが、その形式なら工業科は難しいかもしれないが、全教科で協力しながら実施でき非常に良い取り組みになると思うので是非今後も続けてもらいたい。</p> <p>○教務部での新入生実態調査を5月末に取られているが、入学して慌ただしい時期で新入生もまだ学校の実態を把握していない時期、せつかく調査するなら別の時期が良いのではないかな。</p> <p>○進路先に別府大学文学部史学文化財学科へ進学とあるが、学芸員を目指している生徒のようなので是非地元天草に学芸員として戻ってきて欲しい。</p> <p>○若い人が高校卒業後に地元に残って欲しいと思うが、保護者や生徒の中には一度は県外に出したい、出たいという希望があるようだ。今は国内だけでなく、海外で活躍する人も増えている時代。いつかは天草に戻ってくるというスタンスでもいいのではないかな。</p> <p>○工業高校からこれだけの有名な企業に行くことはすごいことで、大学卒業でも入社が難しい企業もある。行政や学校でも県内就職を働きかけられているが、生徒や保護者の希望を考えると難しいのではないかな。天草の高校に残ってくれているだけでもありがたいこと。</p> <p>○人権教育講演会では、これまで人権教育への取り組みはされてきているが、今年度はフリーアナウンサーの村上美香さんに講師として来ていただき講演されたことは、これまでの経験を踏まえた幅広い分野の話が聞けて良かったのではないかな。</p> <p>○学校HPのジュニアハイスクール版天工日よりものづくり体験など中学生向けのきめ細かい取り組みが学校志願者数に関係していると思う。ただ、HPの中にリンクが切れているものや準備中のものがあり、このことは中学生や保護者にとってはマイナス要因となる。課題研究発表会の紹介も撮影された画像も暗く、発表内容もよく解らないため、もっと工夫してもらい、誰に、どんな目的で、何を発信しているのかが見えないので残念。</p> <p>○今年度は新型コロナウイルス等の感染性疾患が流行しており心配。以前修学旅行でインフルエンザ罹患者が大量に発生したと聞いた。現在は寮も含め学校内で発生した場合には、早急に生徒への感染対策を講じられており、安全で安心な学校環境をつくられているようだ。</p> <p>○本校に受検する中学3年生への面接練習の中で高校までの将来ビジョンは思い描いているが、高校卒業した先まで考えてもらいたいと思っている。子供達が天草に残る取り組みを小・中・高で連携していきたい。</p> <p>○本校のインターアクトの次回の活動で、生徒とオーストラリア森林火災から動物を守る街頭募金ボランティアを行う予定にしている。たくさんのボランティア活動をとおして生徒達が成長して欲しい。</p> <p>○時代の変化のせいからなのか、ここ数年就職した若い卒業生の態度が横柄だという話を聞く。学校では社会人としての心構えなどを指導してもらいたい。</p> <p>○保護者からのいろいろな意見などもあり、先生方もご苦労されているように感じるが、是非先生方に頑張ってもらいたい。</p> <p>○同窓会も様々な企画をしても、若い卒業生は参加意識が低い。今後は同窓会の運営自体も考える時期に来ている。</p>

5 総合評価

- 今年度も県の魅力発信事業を活用して天草地区の高校連携取組対象校5校合同で校章とメッセージを本校がデザインを担当してボールペンを制作、管内の中学3年生に配付した。学校広報「ジュニアハイスクール版天工だより」を6回発行、中学校へ配布した。
- 中学生体験入学、天工祭で本校生による中学生へのものづくり教室、本校国道側設置看板への生徒活躍等の掲示など様々な広報活動を行った結果、本校を志願者数は前期選抜に158人、後期選抜に107人となり、4年ぶりに募集定員を超えた。ここ数年、管内中学生の在籍者数が大幅に減少している中においてこの数値はかなり健闘していると考え。
- 保護者の学校評価アンケートの回答率が98.7%(昨年度95.3%)で、学校への関心度の高さが窺える。結果から「本校に入学させて良かった」「進路情報提供、実現への対策」「生活規律指導」「体育系学校行事の充実」「校内整備や清掃」の項目は90%台後半の高評価。「分かりやすい授業」74%、悩みや相談によく応じる」79%の2項目が80%以下だが、概ね保護者の学校評価は高い。生徒も同様に、学校の否定的評価は少なく、学校目標や重点目標についても周知徹底した結果、昨年度より向上している。
- 進路指導においては、好景気に加え、これまでの卒業生の実績も認められ、今年度は2400人を超える求人数であった(過去最高)。このことは学校のセールスポイントであり、本校を志願する生徒へのたいへん大きな魅力である。就職(一般企業143人内定)に限らず、進学(長崎大学や崇城大学、各種専門学校などへ延べ27人合格)や公務員(熊本県庁や天草市役所、自衛隊を含め延べ18人合格)希望者へのきめ細やかな対応が結果に繋がっている。
- 熊本県内企業への就職率向上に向けた取組みとして、しごとコーディネーターの熱心な求人活動や生徒・保護者へのきめ細やかな説明などで熊本県内への就職者数は昨年度の35人から今年度42人と増加となった。
- 学校全体として、資格取得に熱心に取組んでいるが、今年度のジュニアマイスター取得者は昨年度と比べゴールドは37人から29人へ、シルバーは63人から45人へ、昨年度から始まったブロンズは39人から32人と昨年度の合計139人から106人へと大幅に減少した。特別表彰については2人から6人に増加した。生徒の中には資格検定取得には取組むものの、ジュニアマイスターを取得するメリットが感じられず、申請資格を満たしていても申請しないという生徒が増えてきている。
- 部活動では、陸上部、電子工作部が全国大会出場、ハンドボール部、水泳部が九州大会出場を果たした。個人では2年生男子が九州障がい者選手権肢体不自由の部50mに初出場し優勝、日本パラ選手権に出場した。県工業高校生生徒研究発表会では機械科が熊本県工業連合会長賞に輝いた。高校生ものづくりコンテストでは4部門に出場したものの全種目敢闘賞であった。部活動やものづくりをとおした生徒の取組みや成果が、学校の活性化に繋がるため、是非次年度は更なる成果を期待したい。

6 次年度への課題・改善方策

- | | |
|----------------|------------------------------------|
| ① 学校経営 | ○ 学校における教育活動等の更なる情報発信 |
| ② 確かな学力の向上 | ○ 超過勤務時間の削減に向けた働き方改革の更なる推進 |
| ③ キャリア教育(進路指導) | ○ ICT活用やA・L授業の実践のための施設設備の充実 |
| ④ 生徒指導 | ○ 各教科の効果的授業への取組みと基礎学力の向上・家庭学習習慣の確立 |
| ⑤ 人権教育の推進 | ○ 就職・進学・公務員の指導体制の強化及び企業との連携 |
| ⑥ 地域連携 | ○ 進路意識の高揚に向けた各種ガイダンス等への参加啓発 |
| | ○ 国公立大学進学及び公務員受験対策に向けた組織的指導体制の強化 |
| | ○ 生徒会を中心とした学校行事への自主的取組みの推進 |
| | ○ ボランティア活動への積極的参加意識の高揚 |
| | ○ 保護者、外部機関と連携した交通安全教育と規範意識の醸成 |
| | ○ 人権教育推進に向けた効果的な取組の充実 |
| | ○ 教育相談部(人権・特別支援)の校内連携強化と関係機関との連携 |
| | ○ 教科における防災教育の確立と推進 |
| | ○ 開かれた学校づくりに向けた効果的な広報活動の更なる充実 |
| | ○ ものづくりや部活動等をとおした地域貢献活動と郷土愛の育成 |